



仙台から延岡キャンプ

ベガルタ市内に歓迎フラッグ設置

た、会場外での写真撮影やサインなどのファンサー

市の担当者は「子どもたちがプロの選手を間近に見るチャンスをつくれなかったのは残念。ただ、チームが安全にトレーニングできることが最優先なので、ご理解いただきたい」と協力を呼び掛けている。

サッカーJ1ベガルタ仙台の春季延岡キャンプはあすスタート。選手らが延岡入りするきょう、延岡市の関係者が宿泊するエンシティホテル前の五ヶ瀬橋などに歓迎フラッグを20本を設置した。

市の職員とエンシティホテルの従業員ら10人が五ヶ瀬橋の欄干に新調したばかりの旗（縦43センチ、横67センチ）を設置。チームカラーの鮮やかな黄色い旗が風になびいていた。このほか西階陸上競技場前に旗16本、入り口に歓迎看板を設置。中央通の鹿児島銀行前にもNPO法人アスリートタウン延岡が歓迎看板を取り付けた。

21年連続22回目となる延岡キャンプは西階陸上競技場で14日まで。監督と選手含め約50人が参加する。

今年は新型コロナウイルス感染症対策のため無観客で実施され、キャンプ会場以外の練習やトレーニングは行わない。ま



表彰を受けた塩月さん(左)と同席した妻の良子さん

3 県地域文化功労者教育長表彰

塩月眞さんに伝達

若山牧水顕彰に尽力

延岡市教委

県地域文化功労者教育長表彰を受けた延岡市の塩月眞(ただし)さん(90)への表彰伝達式が1月28日、同市役所であり、澤野幸司同市教育長から表彰状と盾が手渡された。塩月さんは「表彰式のちよつと4カ月前に満90歳になったことも兼ねてこの表彰を大変うれしく思っている」と喜びを

語った。塩月さんは若山牧水延岡顕彰会の副会長を務め、2007年から17年まで会長として顕彰活動をリードしてきた。牧水文学振興(ようらいん)の地」として延岡の立場を全国に発信し、市民の地元への誇りをつくり上げるなど大きな役割を果たした。現在は、同会相談

役として尽力している。全国牧水顕彰会副会長も務め、長年にわたり郷土の歌人・若山牧水の顕彰活動に奮闘している。また、「牧水調朗詠」を継承し、牧水歌碑祭や牧水生誕祭などのさまざまな催しで朗詠を披露し、多くの人に慕われている。牧水の生誕100周年の際には、1年間にわ

たって新聞に顕彰記事を掲載。それをまとめた著書「牧水の風景」なども刊行し、牧水研究の貴重な資料として活用されている。このほか、朗詠を記録したCD「若山牧水の歌」などの制作もっており、牧水の歌や生涯を後世に伝えている。塩月さんはこれまで、01年に最高裁判所長官表

彰、03年に藍綬褒章、15年には第66回延岡市文化功労者(学芸文化部門)など数多くの賞を受けている。県地域文化功労者教育長表彰は、長年にわたり芸術文化の向上、普及または文化財の保存や活用に尽力し、地域文化の振興に顕著な功績のあった個人、団体に贈られるも

ので、今年度は他に、日ヶ瀬町文化財保存調査委員会の橋ひよつとこ踊り保存会、五ヶ瀬町の元五さんが受賞した。

風車アートを描こう



「風車プロジェクト」を企画した岡富中学校生徒会執行部

会徒中富岡 22日、野地町 3/3 堤防に設置 コロナに負けない 19校が参加 笑顔を咲かせたい 延岡

コロナ禍で落ち着かない日々が続く中、延岡市立岡富中学校（粟田茂樹校長、301人）生徒会は、市内の中学生に呼び掛けて「風車アート」を描くことを決めた。題して「コロナに負けない 笑顔を咲かせよう風車プロジェクト」。少しでも明るい気持ちになってほしい」と考えたという。22日に同市野地町の堤防斜面に風車を設置するところ。

延岡花物語のメインイ「ク」で飾る風車は、市内「シ」飾ってきた。今年「コ」体が中止に。そこで、風「ロ」ナ禍のためイベント「自」車だけでも自分たちで

**コロナに負けるな！
笑顔を咲かせよう
風車プロジェクト**

開催日：1月22日
延岡市立岡富中学校生徒会

目的
延岡市立岡富中学校の生徒が、コロナ禍で落ち着かない日々が続く中、少しでも明るい気持ちになってほしいと、笑顔を咲かせようという思いで、市内の中学生に呼び掛けて「風車アート」を描くことを決めた。題して「コロナに負けない 笑顔を咲かせよう風車プロジェクト」。少しでも明るい気持ちになってほしい」と考えたという。22日に同市野地町の堤防斜面に風車を設置するところ。

協力をお願いするために作成した手書きの文書

作って飾ろうと、年明けから生徒会執行部で朝と昼休みの時間に話し合いを重ねてきた。

大きなプロジェクトのため、「みんなに協力してほしい」との思いで、執行部7人が手書きで思いをつづった文書も作った。

1月下旬に市内の公立中学校16校、県立延岡しるやま支援学校、私立中学校2校の計19校に文書と共に協力を呼び掛けると、期待を上回る速さで参加の返答が続々届き、全ての学校で取り組むことが決まった。

例年と違って今回は、感染症対策に気を使う。材料は同一イベント実行委員会が保管していた材料を提供してもらい、それを利用して風車を作るようになった。

例年は3千本の風車を用意するが、今年は設置や撤収作業の際に密にならないようにと3分の1の約千本に数を減らした。さらに、各校ごとに目安本数を設けて募集することにした。製作を希望する生徒は5日に同校ホームページにアップする作り方の映像を見て、各自家に持ち帰った材料で風車を作ることになっている。

完成した風車は回収した後、22日にコロナの早期収束、コロナ差別の解消、医療従事者への感謝の気持ち、延岡市民の元気を願って岡富中1年生が設置予定。堤防での展示は、撤収する3月2日まで続ける予定という。

風車で描くアート作品の内容は、まだ計画中だが、医療従事者に感謝の気持ちや伝わる作品にしたいと考えており、「感謝の気持ちや伝わるとうれしい。頑張ってきたっている人に見てもらいたい」と元気になってほしい」と同校執行部。「例年とは違うからこそ、いつもと違う思いを込めることができる」「地域活性化にもつながれば」と期待を寄せながら準備を進めている。

生徒会執行部の堀田莉空会長も「コロナなど病気がよった人、そばに医療従事者だけでなく、常に危機感のある今の状況に笑顔を咲かせようと考えた「いろんな人」に思いが伝わるように、丁寧につけてほしい」と呼び掛けている。